

編集後記

周期的に襲って来る円高不況に対して、わが国の産業構造は積極的に適応転換を行って来た。しかし、今回の円高は金利の高目誘導もあって、産業界の一部では非常に心配している。今進行している情報化、ソフト化、サービス化ということが、今の話とどう関係しているかという問題についても、まだはっきりしないものが残っている。しかしそれらは、産業構造の高度化という観点からなされるならば、円高への適応転換とむすびつくことになる。流通産業の自由化、輸入品の高流通マージンの問題もそれと結びつけなければならない。今回の編集は期せずして物流中心となり、今年度の研究所の実態調査も物流中心となったが、それは単なる物流技術の改善だけを目的とするものではなく、以上のような使命を自覚しながら行われるべきものであると考える。「多言は要せず、ただ誠心ならんことを欲するのみ」である。

(速水)

流通問題研究

No. 5・6

1985年10月1日発行

発行 流通経済大学流通問題研究所

代表 速水保

〒301 茨城県竜ヶ崎市字平畑120番地

Tel (02976) 2-3251

製作 株式会社 桐原書店

〒166 東京都杉並区高円寺南2-44-5

Tel (03) 314-8181

(非売品)
